

Case2

患者さんとともに MRI 検査での危険を避ける ～宮城病院での金属 持ち込みゼロへの挑戦～

強力な磁力を利用した MRI

MRI は体の断面を撮影する検査機器で、CT が X 線を利用するのに対し、MRI は強力な磁力を利用して撮影します。いわば巨大な磁石のようなもので、それ故に金属を強い磁力で引き寄せられるのです。宮城病院では今まで、酸素ボンベといった医療機器の吸着事故は起こっていませんでしたが、心配だったのは患者さんがうっかり持ち込んでしまう金属類でした。



「より安全な医療を提供するには、小さくても金属の持ち込みを防ぐことがとても大切」と、宮城病院の永野功院長（神経内科）も茄子川（なすかわ）診療放射線技師長も口を揃えます。

小さな金属でも油断大敵

小さな金属とは、時計・眼鏡・イヤリング、ポケットの中の硬貨、高齢者に多い補聴器・義歯、さらには肩凝り対策にと貼った磁気治療器などがあげられます。磁気が発生すると金属はミサイル効果と呼ばれるほど早いスピードで、MRI の真ん中へと飛んでいきます。そのため、患者さんやスタッフに当たるとケガにもなりかねず、補聴器などは壊れて使えなくなってしまうのです。

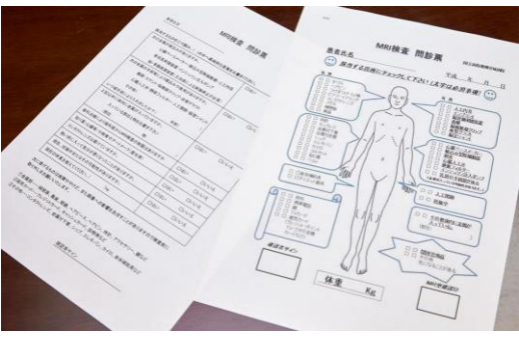


また、虚像（アーチファクト）と呼ばれる画像の乱れの原因にもなり、診断漏れにつながる可能性があります。このため、小さな金属でも細心の注意を払う必要があるのです。さらに、湿布などは電子レンジの中のように共鳴して発熱するため、低温やけどにつながることもあります。

こうした事故を避けるために、宮城病院でも以前から検査前に問診票で確かめていましたが、すべての患者さんのポケットに手を突っ込んで調べるわけにもいかず、文字だけの問診票ではチェックをすり抜けてしまうことがわずかにあったそうです。もちろん大きな事故につながったことはありませんでしたが、より安全に検査を受けてもらうための改善活動を行うチーム「永遠の00」が2013年9月にスタートしました。

ポイントは問診票の全面改訂

宮城病院では問診票を全面改訂することで確認方法をより徹底させました。その効果は抜群で、以後、持ち込みは1件も起きていません。ポイントは、まず、これまでにすり抜けそうになった物を体外と体内（人工関節・インプラント・心臓ペースメーカーなど）に分けてリスト化し、さらに具体的にイメージできるよう問診票の真ん中に人体図を加えたこと。看護師はこの問診票を見ながら品名を一つひとつ読み上げ、頭から足先へと聞いていくのです。2つ目のポイントは技師による検査前の再チェックです。技師も全く同じ内容をチェックし、看護師と技師の両方のサインがあって初めて検査を行います。



人体図があることでイメージしやすく、具体的な物の名前でも、患者さんも下着の下の磁気治療器にも気づくことができるのです。「当然、患者さんやご家族の協力も欠かせず、看護師の全面協力が大きい」と茄子川技師長は語ります。異なる立場のスタッフが力を合わせることで、患者さんの安全性を普段の何気ない工夫で高めているのです。



取り組みが生み出した思わぬ効果

「思わぬ副産物も生み出した」というのが永野院長と茄子川技師長の共通認識です。金属類があまり問題にならないCTなどの検査でも「これ外したよ」「これは大丈夫？」と、患者さんが自ら申告してくれることが多くなったのです。

患者さん自身の意識が高まり、何のために検査をするのか、という理解が深まりました。「お任せ”の医療ではなく、自分で自分の健康を守るという意識付けにもつながっています」と永野院長が笑顔で話してくれました。



宮城病院では、新しく採用・赴任した全スタッフに、金属の危険性を認識してもらうための研修も行っています。MRI室でのミサイル効果の実演は、まさに“百聞は一見に如かず”の効果を生み、意識を高めた全スタッフが患者さんと一体となって地域医療を守っているのです。

地域に根差して地域とともに

宮城病院は地元の山元町、隣接する巨理（わたり）町との間で三者間協定を結び、地域包括ケアや健康づくりによる未病対策なども推進している。また、昨年初めて山元町とのタイアップで看護師の卵たちを対象とした病院見学会を実施。地元施設の見学や地元特産の「いちご狩り」などにより環境の良さもアピールした。結果、参加者19名から3名の就職に結びついており今年も実施予定。地元の若者との交流も加えて、大震災の影響が大きい若年人口減に歯止めをかけようとしている。



▲昨年のイチゴ狩り。「おいしいイチゴの見分け方」も好評でした

■宮城病院（宮城県山元町）



許可病床数 344 床。難病や障がいの患者さんに対する専門医療と、地域住民を対象とした地域医療が 2 大柱。神経難病治療にも力を入れており県内の拠点病院のひとつ。宮城県南東端に位置することから、福島県相馬市などからの紹介患者も多い。